

## 大雪山国立公園における協働型維持管理について

### 協働型維持管理とは？

「広大な原始山岳風景」の保全と維持を目的として昭和 9 年に国立公園に指定された大雪山国立公園。その雄大な山岳風景や高山植物を一目見ようと日本国内のみならず、近年では海外からもこの地を訪れる登山者が増えている一方で、登山道の荒廃は大きな問題となっており、各地で保全のための登山道の維持管理の取り組みが行われています。

しかしながら広大な面積を持つ大雪山国立公園を管理するには人員が不足していることや、これに加えて維持管理作業等に関わっている関係者も広範囲にわたるため、どこでどのような人たちがどんな作業を行っているのか分からなかった、という広大さゆえに関係者同士の顔が見えないという事などが課題となっていました。

これらの課題を改善していこうと平成 23 年度より協働による登山道維持管理の仕組み作りを始めました。これは山岳会、市町村、北海道、森林管理署、それに環境省のパークボランティアも含め、官民が一体となって大雪山国立公園の保全活動に携わり、お互いの作業状況を共有することや、お互いの作業の長所を取り入れることによって、より良い維持管理の仕組みが整っていく事を目的とするものです。



### これまでの取り組み

冬期間に各関係団体の維持管理実例の発表などを行う場を設けると共に意見交換を行いました。また登山シーズン初めの 6 月には情報交換会を開催し、今年度の作業予定などの周知を行うと共に、また 8 月及び 10 月には実際現地での登山道技術講習会を実施しました。



東大雪地区における情報交換会  
(H24.2.2 帯広市)



表大雪地区における情報交換会  
(H24.6.1 美瑛町)



登山道技術講習会の室内講義の様子  
(H24.8.29 旭岳)



登山道技術講習会の現地講義の様子  
(H24.8.29 旭岳)

#### 参加した関係者からの声

- 「大雪山国立公園における他の地域の方と情報を共有できたことは非常に良かった」
- 「定期的にこのような形で技術講習会を開いて欲しい」
- 「登山道の維持管理の経緯などについて広く情報として公開して欲しい」
- 「登山道管理水準や技術指針が現在はうまく生かされていない。見直しも必要」

#### 協働型維持管理の今後

協働型による取組みについてはまだ始まったばかりですが、今後は過去に行った整備箇所の検証なども行いながら、出来るだけ多くの地域関係者や一般登山者からの協力も含め協議を行い、将来的に大雪山国立公園にふさわしいきめ細やかな登山道の維持管理の仕組み作りを行っていく事が重要であると思われまます。